

小松市緑の基本計画 市民意識調査 集計結果

【調査対象者】 小松市に居住する満20歳以上79歳以下の住民

【配布数】 1,000人

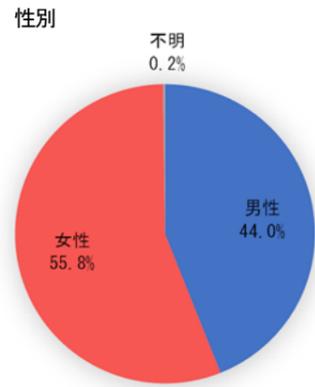
【抽出方法】 単純無作為抽出法

【調査期間】 平成30年12月14日(金)～12月28日(金)

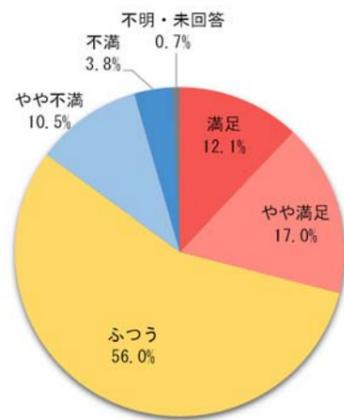
【回収数】 448人 (回収率44.8%)

【回答者属性】 回答者の男女比は、男性44.0%、女性55.8%となった。(不明0.2%)

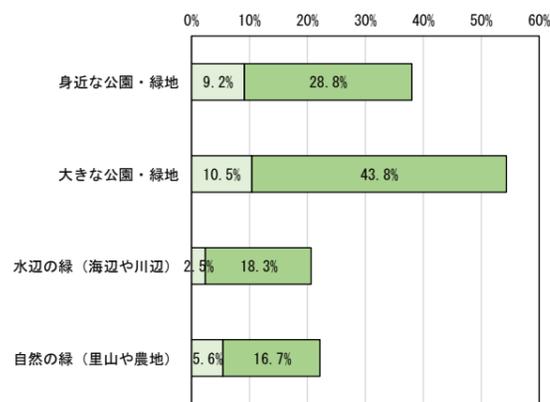
60代以上の回答者が全体の4割を超えているものの、幅広い年代から回答が得られた。



小松市全体の緑の量の満足度



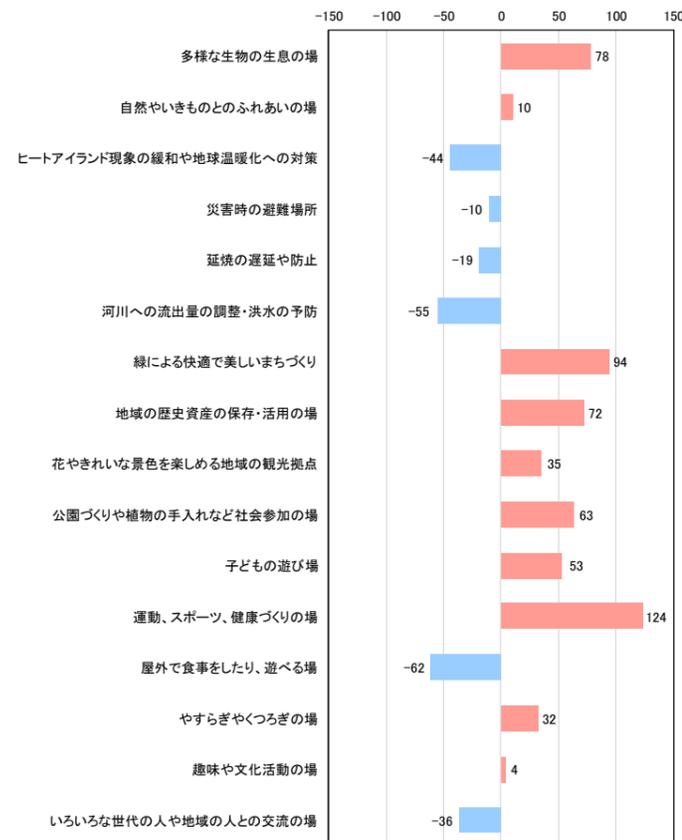
緑地別の利用状況



□よく利用している □たまに利用している



小松市の公園緑地施策の評価



区分	集計結果のまとめ
現況	<p>【緑の認識】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●市民が認識する緑は、「山や丘陵地の緑」や「田畑」であり、小松市全体の緑の量に対しては、8割以上が満足している。 <p>【利用状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●大きな公園に比べ身近な公園の利用が低く、利用につながる取り組みが必要である。 ●自然の緑(里山や農地「田畑」)に比べ、水辺の緑(海辺や川辺)の利用が低い。 <p>【要望・改善点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●身近な公園は、町内会やNPO等の地域ぐるみに任せた自由な公園利用・運営へのニーズが高い。 ●大きな公園は、行政主導が高いが町内会やNPOの参画、飲食・物販店等の民間運営ニーズも高い。 ●自然の緑の利用では、里山や農地で親しめるようなイベントが求められている。 ●水辺の緑の利用では、散策やジョギング、サイクリング等のコースの整備が求められている。 <p>【公園緑化施策の評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●運動、スポーツ、健康づくりの場(レクリ)や緑による快適で美しいまちづくり(景観)は評価が高いものの、屋外で食事をしたり遊べる場(レクリ)や河川への流出量の調整・洪水の予防(防災)の評価が低い。 <p>【施策の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●公園や緑地の整備拡大でなく、既存の公園や緑地の改善を進めることが望まれている。 ●身近な公園では、地域ぐるみに任せた自由な公園利用・運営へのニーズが高い。 ●大きな公園では、行政主導が多いが、地域ぐるみや民間運営へのニーズもある。 <p>【行政支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地域の公園を利用または維持するためのルールづくりへの支援が多く、次いで住民参加による緑化整備事業の拡充、緑化活動に関する情報提供、フローラルこまつの活動支援となっている。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ●量から質に向けた公園緑地のあり方について理解を得ており、かつ市民の参画意向も高いことから共創による取り組みを進めていく素地が整っていると考えられる。 ●また、市民ニーズは多様化しており、利用率の低い身近な公園の利活用の見直しが問われている。さらに健康面だけでなく、屋外での食事などの娯楽性の高い公園利用も求められている。 ●今後は、緑化活動への支援とともに、公園緑化施策の話し合いの場の提供や民間資本の活用を視野に入れた情報発信等、ソフト面での取り組みを充実していくことが必要である。